

## 旧芦屋市営宮塚町住宅について（概要版）



### 1 概要

- (1) 文化財名称 旧芦屋市営宮塚町住宅（きゅうあしやしえいみやづかちょうじゅうたく）
- (2) 所有者 芦屋市
- (3) 所在地 兵庫県芦屋市宮塚町 89－1  
（住居表示：芦屋市宮塚町 12－24）
- (4) 竣工年 昭和 28 年（1953 年）
- (5) 設計者 芦屋市建設部建築課
- (6) 建物構造 石造 2 階建
- (7) 建物面積 177 m<sup>2</sup>

### 2 建物の特徴

旧芦屋市営宮塚町住宅は、戦後復興期の深刻な住宅不足の対策として本市が建設した市営住宅であり、昭和 20 年代の公営住宅について知ることができる希少な現存例として高く評価できる。

当建物の最大の特徴は、日華石（石川県小松市産の凝灰岩）による石造の外壁で、石材間に鉄筋を通して補強する構造となっている。このような石造の集合住宅は、全国で唯一の事例と考えられる。石造となった理由としては、昭和 20 年代に建物（都市）の不燃化が検討される中、当時のセメント不足に対する試行策として、外壁の材料にコンクリートではなく、石材を用いたためと推測する。

平成 29 年に市営住宅の用途が終了した後、平成 30 年に耐震改修工事を実施した上で内装等のリノベーションを行った。令和元年 6 月からは、各部屋を紅茶専門店の老舗やものづくり職人に賃貸し、有効に活用している。